

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	ひだ清見イベント開催事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	<input type="radio"/> A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		<input type="radio"/> B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		<input type="radio"/> C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		<input type="radio"/> D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光資源策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント来場者	対象者数	12,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域内の組織する各種団体が実行委員となり、地域主導のイベントにより町の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・夏祭り ・紅葉まつり		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H24の実績	・夏祭り 1,500人 ・紅葉まつり 7,000人 ・観光PR用キャラクター着ぐるみの作成					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動 指標	イベント回数	回	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	-
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	-	
	活動 指標	来場者数	人	目標値	12,000	12,000	12,000
				実績値	11,300	8,500	-
		算出根拠等	達成率(%)	94	71	-	
	成果 指標	来場者数前年対比	%	目標値	97	110	141
				実績値	110	75	-
		算出根拠等	達成率(%)	113	68	-	
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)			-	
				目標値			
実績値						-	
算出根拠等		達成率(%)			-		
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A) 4,987	4,900	4,400		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		4,987	4,900	4,400		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 441	576	367		
	受益者	来場者数	(B)	11,300	8,500	12,000	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・合併前からイベントで市民に周知されており、市民ニーズは高く、県内外からの来場者も非常に多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・実行委員会は地域内の各種団体と行政で構成されている。今後も民間が主導となり、イベントの目的意識を持って継続する力が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・紅葉まつりは、悪天候のため例年より来場者が少なかったが、イベント内容も充実しており、地域の観光PRや活性化に繋がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・協賛金を増やすなどの努力により自己負担率も上がっている。またイベントの規模からもコストは適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・実行委員会は地域内の各種団体で構成され連携を図っており、市長の公約に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにした課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域内の各種団体がイベントに対する目的意識を明確にし、民間が主導となる企画・運営を進め、住民への周知を図ることで更なる地域産業の活性化に繋げる。
---------------------------------------	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・イベントの目的・テーマを掲げ、清見地域の特色を活かした事業メニューにより誘客増加を図り、地場産業の活性化に繋げる。 ・特例期間終了を見据え、今後のイベントのあり方や事業の内容を実行委員会で検討する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・観光協会と地域団体が連携し、観光資源・地域産業を合わせ特色あるイベントを企画し誘客に結びつける必要がある。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	せせらぎ街道キャンペーン推進事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
	種別				3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	<input type="radio"/> A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		<input type="radio"/> B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		<input type="radio"/> C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		<input type="radio"/> D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・自然景観を維持し、観光資源として活用し、せせらぎ街道を魅力あふれる街道として利用者の増を回り、地域を活性化させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・せせらぎ街道を愛する会を通じて、せせらぎ街道を利用してもらうための観光キャンペーン・写真コンテストや、自然景観維持のために、草刈りや植樹などを郡上市と連携して実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・街道沿線清掃、植樹作業などの景観保全。 ・せせらぎ街道の横断幕の設置などによるPR活動の実施。					
		指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	事業実施数(せせらぎ街道を愛する会事業実績)	回	目標値	11	11	11
				実績値	12	12	-
				算出根拠等	達成率(%)	109	109
	成果指標	せせらぎ街道入込客数(道の駅バスカル清見、ウッドフォーラム飛騨入込数)	人	目標値	180,000	180,000	180,000
				実績値	168,070	170,902	-
				算出根拠等	達成率(%)	93	95
	成果指標	入込客数前年比(道の駅バスカル清見、ウッドフォーラム飛騨入込数)	%	目標値	111	94	105
				実績値	94	102	-
				算出根拠等	達成率(%)	85	109
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A) 800	800	800		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		800	800	800		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 307	308	313		
	受益者		清見地域住民(4月1日現在) (B) 2,609	2,597	2,558		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・四季折々の美しい景観が保たれた人気のドライブコースでもあり、市民ニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・せせらぎ街道を愛する会並びに郡上市とともに、市民と行政とが連携しながら事業をすすめ、地域の活性化にもつながることから市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・平成23年の震災以降、せせらぎ街道の利用者は一時的に減少したものの、ここ数年は徐々に戻りつつあり、今後も引き続き魅力あふれる街道となるように景観保全などの事業を行っていく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・22年度に、せせらぎ街道が「岐阜県のじまんの原石」に認定されるなど、市長の公約でもある自然景観を観光資源として活用することにも結びつき効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・今後も引き続き「せせらぎ街道」が、魅力あふれる街道となるよう景観保全などの事業を行って行く必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。
----------------------	--------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・観光シーズンに併せたクリーンアップ作戦などの実施により、景観保全の維持を図っていく。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・「岐阜県のじまんの原石」に認定されたことから、今後は「明日の宝物」になるようせせらぎ街道を愛する会並びに郡上市と連携して、せせらぎ街道の価値を高めていく。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3221
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3	民生費		○	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画	高山市老人福祉計画						
市長公約	5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要介護者等への地域福祉体制を整備します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,677 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,500	10,000	10,000
				実績値	9,796	9,584	-
				算出根拠等	達成率(%)	93	96
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	150	143	139
				実績値	143	139	-
				算出根拠等	達成率(%)	95	97
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	43	40	40
				実績値	39	38	-
				算出根拠等	達成率(%)	91	95
	活動指標	連合長寿会加入者数/65歳以上人口		目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	活動指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			162	150	280	
一般財源			258	270	140		
コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B)	571	569	586	
		受益者	清見区会員数(4月1日現在)	(B)	735	738	717

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入率が低下している。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を推進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	老人クラブ加入者は、年々減少傾向であるため、長寿会の組織の見直しや活動内容の充実に取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	支所地域長寿会事務局の人件費補助として、最小限の経費である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。また、高齢者に多い病気に対する理解を深めることができた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・新規加入者が少なく、連合長寿会会員の減・単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・全域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・老人クラブ活動費補助金(31336事業)との一本化を図る。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・全域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72199	市道未登記用地測量事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	道路橋りょう総務費		D	その他事業		
根拠計画	地域振興計画							
市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市道内に残る民地の地権者	対象者数	158 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市道の未登記路線の整理により、所有権主張によるトラブルを解消し、適正な道路管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	市道未登記箇所の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	<ul style="list-style-type: none"> 1路線の登記完了 2路線の調査、測量業務 					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	対象路線数	本	目標値	10	8	7
		算出根拠等		実績値	2	1	-
				達成率(%)	20	13	-
	成果指標	使用承諾済筆数	筆	目標値	74	60	39
		算出根拠等		実績値	14	21	-
				達成率(%)	19	35	-
	成果指標	登記済筆数	筆	目標値	204	174	165
		算出根拠等		実績値	30	9	-
				達成率(%)	15	5	-
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A) 7,195	3,642	12,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		7,195	3,642	12,000		
	受益者1件当たり(円)		(A/B) 21,607	10,937	32,877		
コスト指標	受益者	(B)	333	333	365		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	市道未登記箇所所有者は限られているが市道の利用者を考えた場合、トラブル発生前に整理することで、ある程度ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市道の未登記部分であり、市により分筆等を行い、所有権移転についても市への寄付をお願いしているため、市にて事業を行う必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	地権者の同意が得られないのと、路線が土地の混乱地であり、測量のみとなり、立会いまで至らない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	土地家屋調査士協会に委託を行い事業をすすめている。今後は市道未登記箇所の再調査を行い、見直しを行う必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	未登記道路の改善につながり効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 所有者不明や市外の所有者であるため境界立会いが困難である。 所有者からの寄付がもらえない。 公園と現地が整合できない。
--	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んで行く必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	未登記路線の早期解消が行えるよう、地権者への説明・寄付のお願いをし、立会い・登記を進める。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	重要路線の未登記処理を早期に解消できるよう取り組んで行く必要がある。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んで行く必要がある。									

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94199	花づくり推進事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3221
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域内の花壇管理を、地域ぐるみで取り組み、地域全体の景観保全と地域の絆を深める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・町内会単位で、花壇の補栽及び管理 ・主要幹線道路側花壇の補栽及び管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H24の実績	・町内会等の地区花壇、ロード花壇の花苗の購入及び地域住民等による花壇管理作業の実施					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動 指標	花苗の配布	本	目標値	62,500	62,500	62,500
		算出根拠等		実績値	62,020	61,390	-
				達成率(%)	99	98	-
	活動 指標	花壇面積	m ²	目標値	1,875	1,875	1,875
		算出根拠等		実績値	1,875	1,875	-
				達成率(%)	100	100	-
	成果 指標	参加世帯数	戸	目標値	810	810	810
		算出根拠等		実績値	805	821	-
				達成率(%)	99	101	-
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	3,028	2,678	2,800	
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	
	一般財源			3,028	2,678	2,800	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,161	1,031	1,095		
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)	2,609	2,597	2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・子ども会の参画を望む声や地域で盛り上げたい、季節で変化する花壇が理想といったニーズがあるが、反面、一戸当たりの負担が大きい、役の負担が大きい、参加者の減少といった悩みもある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業主体ではなく、地区社会教育推進委員会が事業主体となっている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地区花壇やロード花壇は、地域ぐるみで取り組み、期間を通じて管理がされており、目的とする成果が十分にあがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・花苗購入費用と花壇管理費用を支出しているが、今後は地域の自主的な活動に移行しなければならない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・花による地域のイメージアップは、引き続き図られている。なお、「国民体育大会」(ぎふ清流国体)開催によって花いっぱい運動が意識づけられた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域の自主的な活動となるように事業主体の地区社会教育推進委員会などの協議、検討が必要である。
--	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地区における花いっぱい運動の継続、管理方法等を見直す必要がある。
-----------------	-----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・「花いっぱい運動」事業の継続、管理方法などを見直し、地域の自主的な活動となるような方向性を持たせる。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699	生涯学習作品展及び芸能発表会助成事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
根拠計画						
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・地域に根ざした芸能文化の振興を図ることを目的に、発表の場の提供により活動意欲を高め、世代を交えた多くの住民の交流と文化意識を向上させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・清見地区社会教育推進委員会が実施する地域文化振興事業への助成 ・公民館活動団体や小中学生などの作品展展示会及び芸能発表会の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H24の実績	・生涯学習作品展、芸能発表会等を開催					
	指標名						
	活動 指標	作品 展覧項目	単位	目標・実績	H23	H24	H25
			作品	目標値	7	7	11
			実績値	10	11	-	
	活動 指標	算出根拠等	達成率(%)	143	157	-	
			団体	目標値	10	10	14
				実績値	13	14	-
	成果 指標	作品 展覧人数	人	目標値	470	470	526
			実績値	333	526	-	
			達成率(%)	71	112	-	
	成果 指標	出演 人数	人	目標値	150	150	187
			実績値	187	181	-	
			達成率(%)	125	121	-	
	算出根拠等		目標値				
実績値					-		
達成率(%)					-		
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,150	1,150	1,150	
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	
	一般財源			1,150	1,150	1,150	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	441	443	450		
コスト 指標	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)	2,609	2,597	2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	芸能活動の発表や文化作品の展示などの機会があることで市民のニーズはある程度あり、活動意欲や文化意識の向上につながっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業主体ではなく、地区社会教育推進委員会が事業主体となっている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・準備段階から後片付けまで地域住民が協働して実施しており、成果指標などの目標値も達成されている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・事業主体(地区社会教育推進委員会)も負担をしているが、地域の自主的な活動に移行しなければならない。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・出展者や出演者の活動意欲が高まり、多くの住民に見てもらい機会を提供することで、ある程度の効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入)	・地域の自主的な活動となるように事業主体の地区社会教育推進委員会などの協議、検討が必要である。
-------------------------------------	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・特定期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・運営方法の見直しや少子高齢化に伴う後継者育成などを検討する必要がある。
-----------------	--------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・「生涯学習作品展」や「芸能発表会」等の継続、開催方法などを見直し、地域の自主的な活動となるような方向性を持たせる。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特定期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94799	ひねりの舞、伊勢神楽保存事業補助		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	歴史文化基本構想、保存活用計画 地域振興計画						
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へと継承します。 ◎美しいふるさとを伝統を守り次代に継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を活用するために、つつくしいふるさと認証制度を創設します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町牧ヶ洞・上小島町民	対象者数	759 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・無形民俗文化財の保存と伝承者の育成を行うことにより、伝統芸能の保存と伝承を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市指定無形文化財となっている「ひねりの舞」と「伊勢神楽」の保存と後継者育成を行っている2つの団体に対し、活動費を助成する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・市指定無形文化財となっている「ひねりの舞」と「伊勢神楽」の保存と後継者育成が図られた。					
		指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	補助金の交付額	円	目標値	90,000	90,000	90,000
				実績値	90,000	90,000	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	伝統芸能の奉納回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	保存会会員数(ひねりの舞)	世帯	目標値	14	14	14
				実績値	14	14	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	保存会会員数(伊勢神楽)	人	目標値	15	15	15
				実績値	15	15	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	90	90	90	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			90	90	90	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	117	117	119		
	受益者	牧ヶ洞地区、上小島地区住民 (B)	767	768	759		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・総合計画「ゆたかさ」あるまちをめざしてのうち、郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える活動として、伝統芸能を継承できる後継者の育成に結びつく。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市の無形文化財であるため、市が継続的に支援していくことは必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・伊勢神楽については、毎年奉納され継続的な保存が図られている。ひねりの舞については、7年に1度奉納されるが、少子化により子どもの数が確保できず、当初計画のH24年奉納をH26年に延期したが、継続的な保存は図られている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補助金交付要綱に基づき、最小限のコストで事業が実施出来ている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・伊勢神楽については、毎年奉納され継続的な保存が図られている。ひねりの舞については、7年に1度奉納されるが、少子化により子どもの数が確保できず、当初計画のH24年奉納をH26年に延期したが、継続的な保存は図られている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・ひねりの舞保存会は、上小島地区の住民により構成されている。ひねりの舞には、子どもの芸能が必要であるが、現状の会員では必要な子どもの確保が困難な状況であり、7年に1度確実に実施できるよう、計画的に後継者が確保できるような保存会の体制づくりが必要であると思われる。
---------------------------------------	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・ひねりの舞については、H26年度に実施できるよう計画的な保存や後継者育成を図る。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・郷土の伝統文化を後世に伝えることは、今を生きる者の使命であり、継続的に支援する。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図りながら今後の支援のあり方を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94799	天然記念物環境保全事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくれます。 ・環境保全の重要性を理解し、みんなでより良い環境を創り上げ、次世代に残すことは私たちの使命であるため、将来を見据えた長期的な周知啓発運動の展開に加え、市内のすべての学校で環境教育を推進します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・市指定天然記念物「小島峠ミズバショウを含む湿原植物群」の環境保全対策を地域参加型で実施する。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・獣害(イノシシ)対策をして電気柵を設置する。 ・オオハongoソウの抜き取りを実施する。 ・生態調査研究 ・水路に堰を設置し、水位の低下を防ぐ。 ・排水路フン籠設置(湿原洗堀防止) 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・獣害(イノシシ)対策をして電気柵を設置。 ・オオハongoソウの刈取りを実施。 ・水路に堰を設置し、水位の低下を防ぐ。 																																																																																																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標 電気柵の延長</td> <td rowspan="2">m</td> <td>目標値</td> <td>740</td> <td>900</td> <td>950</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>740</td> <td>950</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td>達成率(%)</td> <td>100</td> <td>106</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動指標 電気柵の面積</td> <td rowspan="2">ha</td> <td>目標値</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td>達成率(%)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動指標 湿原植物保護活動</td> <td rowspan="2">回</td> <td>目標値</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td>達成率(%)</td> <td>150</td> <td>100</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動指標 水路堰の設置</td> <td rowspan="2">箇所</td> <td>目標値</td> <td></td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td>4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td>100</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 被害の減少率</td> <td rowspan="2">%</td> <td>目標値</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td>被害面積/全面積</td> <td>達成率(%)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="6"> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="6">補足事項</td> </tr> <tr> <td colspan="6">H25以降、電気柵の範囲の拡大はなし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">コスト面</td> <td colspan="2">事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)</td> <td>H23 決算額</td> <td>H24 決算額</td> <td>H25 予算額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">歳出(千円)</td> <td>(A) 920</td> <td>1,162</td> <td>1,740</td> </tr> <tr> <td colspan="2">受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源</td> <td>920</td> <td>1,162</td> <td>1,740</td> </tr> <tr> <td>コスト指標</td> <td>受益者1件当たり(円)</td> <td>(A/B) 353</td> <td>447</td> <td>680</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受益者</td> <td>清見地域住民(4月1日現在)</td> <td>(B) 2,609</td> <td>2,597</td> <td>2,558</td> </tr> </tbody></table>						指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25	活動指標 電気柵の延長	m	目標値	740	900	950	実績値	740	950	-	算出根拠等		達成率(%)	100	106	-	活動指標 電気柵の面積	ha	目標値	2	2	2	実績値	2	2	-	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	活動指標 湿原植物保護活動	回	目標値	2	2	2	実績値	3	2	-	算出根拠等		達成率(%)	150	100	-	活動指標 水路堰の設置	箇所	目標値		4	4	実績値		4	-	算出根拠等		達成率(%)		100	-	成果指標 被害の減少率	%	目標値	18	10	5	実績値	18	10	-	算出根拠等	被害面積/全面積	達成率(%)	100	100	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>							目標値	H23	H24	H25						算出根拠等				-	補足事項						H25以降、電気柵の範囲の拡大はなし。						コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	歳出(千円)		(A) 920	1,162	1,740	受益者負担(使用料・負担金等)					その他特定財源(国・県支出金・起債等)					一般財源		920	1,162	1,740	コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 353	447	680		受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B) 2,609	2,597	2,558
	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25																																																																																																																																																												
	活動指標 電気柵の延長	m	目標値	740	900	950																																																																																																																																																												
			実績値	740	950	-																																																																																																																																																												
	算出根拠等		達成率(%)	100	106	-																																																																																																																																																												
	活動指標 電気柵の面積	ha	目標値	2	2	2																																																																																																																																																												
			実績値	2	2	-																																																																																																																																																												
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-																																																																																																																																																												
	活動指標 湿原植物保護活動	回	目標値	2	2	2																																																																																																																																																												
			実績値	3	2	-																																																																																																																																																												
	算出根拠等		達成率(%)	150	100	-																																																																																																																																																												
	活動指標 水路堰の設置	箇所	目標値		4	4																																																																																																																																																												
			実績値		4	-																																																																																																																																																												
	算出根拠等		達成率(%)		100	-																																																																																																																																																												
成果指標 被害の減少率	%	目標値	18	10	5																																																																																																																																																													
		実績値	18	10	-																																																																																																																																																													
算出根拠等	被害面積/全面積	達成率(%)	100	100	-																																																																																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>							目標値	H23	H24	H25						算出根拠等				-																																																																																																																																														
	目標値	H23	H24	H25																																																																																																																																																														
算出根拠等				-																																																																																																																																																														
補足事項																																																																																																																																																																		
H25以降、電気柵の範囲の拡大はなし。																																																																																																																																																																		
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額																																																																																																																																																													
	歳出(千円)		(A) 920	1,162	1,740																																																																																																																																																													
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																																																																																																	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																																																																																																	
	一般財源		920	1,162	1,740																																																																																																																																																													
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 353	447	680																																																																																																																																																														
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B) 2,609	2,597	2,558																																																																																																																																																													

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・周辺の環境変化に伴い、近年減少傾向ではあるが、特に獣害被害は顕著である。また水路の洗堀等により水位が下がり乾燥化が進みこのままでは、全滅の可能性もあるため、多くの住民及び観光客が保全を望んでいる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・この地は私有地である。地域住民のボランティア活動で草刈りを行っているが、電気柵や水を野堰設置などは経費もかかり地域住民で全てを行うことができない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・電気柵による獣害対策の有効性は一昨年、昨年と引き続き検証されている。水路堰の設置やオオハongoソウの抜き取りについては、昨年と比べ若干ではあるが有効と認められるものである。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・電気柵の設置管理においては、最小限に抑えている。水路堰については、次年度で完了する。また環境整備としての草刈りは毎年ボランティアで実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・豊かな自然、希少価値の高い植物を守るため、減少傾向にある水芭蕉・ザゼンソウを主とした保護対策を行うことにより、獣害からの被害は防ぐことができている。また、オオハongoソウは年々減少し、ミズバショウ、ザゼンソウともに若干ではあるが増加してきている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		9 / 10	→	100点換算 90 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・電気柵は3年目、水路堰は2年目ということもあり、眼に見えてミズバショウや、ザゼンソウが増えているわけではないが、3年前と比較すると若干ではあるが効果が出てきている。次年度、個体数調査によりはっきりとした効果を検証する。また、オオハongoソウについては、湿原内は減少してきているものの、周辺地域には多く植生しているため、周辺土地所有者の協力を得て除去していかねばならない。

(参考) H24事業評価結果(二次評価)

・市指定天然記念物保護に対し、市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・周辺土地所有者にもオオハongoソウの除去の協力を求めて行く。
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・電気柵の設置は次年度以降も継続的にを行い、水路堰においては設置箇所を増やす。また、オオハongoソウの除去も続けて行っていく。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95199	地域スポーツ振興事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3221
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費		D	その他事業	
	根拠計画						
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・スポーツ大会等を通じて健康増進を図ることと老若男女を問わず地域住民間の交流を深める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・清見地区社会教育推進委員会が実施する体育振興事業への助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・軟式野球、ソフトバレーボール、新春マラソン、剣道、卓球、スキーのスポーツ大会を開催					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	大会数	回	目標値	8	8	8
		算出根拠等		実績値	7	6	-
	成果指標	参加人数	人	目標値	800	800	800
		算出根拠等		実績値	593	447	-
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
	補足事項						
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	
		歳出(千円)		(A)	380	380	380
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源			380	380	380		
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	146	146	149		
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)	2,609	2,597	2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・年間を通じて様々なスポーツ大会等を開催しており、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業主体ではなく、地区社会教育推進委員会が事業主体となっている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・それぞれのスポーツ大会等を通じて地域住民のつながりと交流の場となっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業主体(地区社会教育推進委員会)も負担をしているが、地域の自主的な活動に移行しなければならない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・スポーツ大会等の開催により、地域住民とのつながりと交流が深められている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の自主的な活動となるように事業主体の地区社会教育推進委員会などの協議、検討が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・世代交代による参加人数の減少、実施種目の検討や大会参加人数増加への取り組みが必要である。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・「各種スポーツ行事」等の継続、開催方法などを見直し、地域の自主的な活動となるように方向性を持たせる。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域おこし協力員活用事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3221
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
根拠計画							
市長公約	新しい街づくりを実現するために、次のことを市長の基本姿勢とします。 「合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします」 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町大原地区住民	対象者数	89 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・地域力の維持、強化をはかり、地域の担い手となり地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・大原地域に地域おこし協力員(1名)を平成23年度より3年間委嘱し、住民と協働で地域力の維持・強化に資する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H24の実績	・地域おこし協力員を委嘱し、大原地域で受入団体「おっぱら夢組合」と協働により地域活性化につながる活動を実施した。また、活動時間外においても積極的に町内会等の行事に参加し、地域力の維持・強化に貢献した。					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動 指標	地域おこし協力員の委嘱人数	人	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動 指標	地域おこし協力員の活動月数	月	目標値	12	12	12
				実績値	11	12	-
				算出根拠等	達成率(%)	92	100
	成果 指標	おっぱら夢組合が実施した体験活動の参加者数	人	目標値	1,332	1,332	2,000
				実績値	1,583	2,527	-
				算出根拠等	達成率(%)	119	190
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値						-	
算出根拠等				達成率(%)			-
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	2,294	2,688	2,800	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			2,294	2,688	2,800	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/ B)	25,489	29,867	31,461		
	受益者	(B)	90	90	90		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域力の維持、向上を図るため、地域の担い手となる地域おこし協力員に対するニーズは高いものがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業主体ではなく、国(総務省)が事業主体となっている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・協働組織(おっぱら夢組合)の評価が高く、受入れ状況(体験活動参加者数)も目的とする成果がある程度あがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・地域振興特別予算において予算執行しており、必要最小限の範囲内で事業を実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・将来的には活動地域に定住、定着するという意識の下、地域おこし協力員として活動をしている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域おこし協力員としての活動終了後も地域への定住、定着が図られるように協働組織などの協議、検討が必要である。
--	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・活動目標を明確化するとともに活動拠点以外の地域での交流などにより地域との連携を強化する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・委嘱期間の最終年度でもあり、3年間の地域おこし協力員活動をまとめた報告会を開催する。 ・地域おこし協力員の活動終了後も地域に定住、定着ができるように促進する。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	21899	清見地域サクラソウ保護保全事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3212
予算	会計	1	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18	D	その他事業	
根拠計画					
市長公約	8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくれます。 ◎市民生活の中に自然環境を生かした街づくりを進めます。 ・環境に対する取り組みを地域の活性化につなげるため、他業種連携による新産業の創出を図ります。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	個人レベルで自生種の保護が行われているサクラソウ(環境省・岐阜県のレッドデータブックの絶滅危惧種)を将来にわたり保護・保全するため、①自生種の保護に関する調査研究を行い、その希少性を確認し、②市民にサクラソウを軸とした自然生態系を意識した自然保護意識の高揚に努め、③保護活動団体の育成と支援を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	①自生種遺伝子の調査と保護・保全活動の研究(筑波大学との連携) ②保護・保全活動の団体紹介や、研究・活動成果を公表する、市民を対象とした講演会の開催 ③保護団体等の育成及び支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	保護活動意識啓発活動	回	目標値			2
		算出根拠等	観察会、講演会等の開催	実績値			-
	活動指標	保護活動団体の育成と支援	団体	目標値			1
		算出根拠等	保護活動団体数	実績値			-
	成果指標	品種(遺伝的に異なる個体)の保全	個体	目標値			10
		算出根拠等	筑波大学のDNA鑑定による	実績値			-
	成果指標	保護団体の会員数	人	目標値			10
		算出根拠等	会員数の合計	実績値			-
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	
	歳出(千円)			(A)	0	0	400
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						400
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)		156	
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)		(B)		2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外 点
----	---	---	--------	---------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	清見地域のサクラソウの生育調査を行い、パネルとサクラソウの展示会を実施する。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	保護団体の育成支援と、保護団体を中心とした自生種の里親制度を実施するなど、多くの住民に関わりをもってもらい、サクラソウという個体の保護だけでなく生育環境(生態系)を意識した自然保護の意識高揚を図る。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の事業のあり方を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	51399	体験施設改修事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	体験施設利用者	対象者数	11,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・体験施設(すのまたふるさと学校・巣野倶野外研修施設・里人学校・おっぱら自然体験センター・彦谷の里)の利用者ニーズに対応した適正な施設管理が行われている。		
概要	事業の実施手法(手段)	・体験施設(すのまたふるさと学校・巣野倶野外研修施設・里人学校・おっぱら自然体験センター・彦谷の里)の施設修繕を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	25年度新規事業のため実績なし					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	すのまたふるさと学校施設トイレの洋式化	基	目標値			7
		算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
	成果指標	体験施設(すのまたふるさと学校・野外研修施設・おっぱら視線体験センター・里人学校)利用者数		目標値			11,000
		算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
				目標値			-
		算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
				目標値			-
		算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	4,500	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					4,500	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)		409		
指標	受益者	体験施設利用者	(B)		11,000		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H25新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H25新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外 点
----	---	---	--------	---------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	経年劣化による施設修繕として、トイレの洋式化、屋根等の塗装修繕を行う。
-----------------	-------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・施設利用率向上のため、利用者のニーズに対応した施設管理が必要である。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="checkbox"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	61199	商工施設整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	地域商工振興事業費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	10	市民のための行政改革を断行します。 ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します。 ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	484,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・商工施設の利用者ニーズに対応した適正な施設管理が行われている。		
概要	事業の実施手法(手段)	老朽化する施設の修繕と器具等を更新する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	25年度新規事業のため実績なし					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	ウッドフォーラム飛騨公衆トイレの洋式化	基	目標値			4
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	活動指標	道の駅バスカル清見、ななもり清見厨房備品の整備	台	目標値			6
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標	ウッドフォーラム飛騨利用者数	人	目標値			37,000
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標	道の駅バスカル清見利用者数	人	目標値			147,000
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標	道の駅ななもり清見利用者数	人	目標値			300,000
実績値						-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	4,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					4,000	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)		8		
指標	受益者	施設利用者	(B)		484,000		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H25新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H25新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外 点
----	---	---	--------	---------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	経年劣化による施設修繕として、トイレの洋式化、厨房備品の更新を行う。
-----------------	------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・施設利用率向上のため、利用者のニーズに対応した施設管理が必要である。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	清見グリーンツーリズム推進事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
	番社				3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	グリーンツーリズム参加者	対象者数	10,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・既存の体験施設(おっぱら自然体験センター、すのまたふるさと学校、清見里入学校)と連携したグリーンツーリズムの推進。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会を中心としたグリーンツーリズムPRの実施や生活環境保全林「小鳥の郷」の活用についての現地調査の実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	「小鳥の郷」の活用のための現地調査等。					
		指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	既存体験施設のための啓発等活動回数	回	目標値	4	1	1
				実績値	4	2	-
	成果指標	既存体験施設の利用者	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	8,695	11,019	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	200	-
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)	87	110	-
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
達成率(%)							
目標値							
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	430	76	350	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			430	76	350	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	49	7	35	
	受益者	グリーンツーリズム参加者	(B)	8,695	11,019	10,000	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市内学校等からの農業体験メニューの要請が増加しており、ニーズが高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・グリーンツーリズム事業は、市が誘客の目的として積極的に推進していることから市の参画は妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・貴重な資源を有する「小鳥の郷」の現地調査を行ったが、今後この施設をどのように利用していくかの検討が必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・市の基準に基づき、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の自然環境を利用した体験学習や新たな資源を発掘し地域活性化の向上が図られた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・冬期間等閑散期における体験メニューの検討や各季節におけるメニューを充実し年間を通してグリーンツーリズムの推進を図る。 ・生活環境保全林「小鳥の郷」の活用について検討が必要。
--	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。
----------------------	--------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	「小鳥の郷」の活用方法について、ひだ清見グリーンツーリズム協議会や地元関係者と検討し、グリーンツーリズムの推進に繋げる。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会が中心となり、既存3施設との連携を図り体験メニューの充実と「小鳥の郷」の活用によりグリーンツーリズムの推進を図る。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	ひだ清見お帰りキャンペーン事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
	種別				3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 予算 の 目 的	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川・清見住民	対象者数	3,781 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川地域と連携して、せせらぎ街道・やまびこ街道・さくら街道の利用者増を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・荘川・清見観光客誘致推進協議会を核にキャンペーンの実施・誘客パンフレットの印刷等を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	観光マップの製作 誘客キャンペーンの実施(4回)					
		指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	観光マップ配布枚数	枚	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	10,000	10,000	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	誘客キャンペーン実施回数	回	目標値	3	3	3
				実績値	3	4	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	133
	成果指標	清見町入込客数(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅なもり清見入込客数)	人	目標値	470,000	480,000	480,000
				実績値	428,912	429,564	-
				算出根拠等	達成率(%)	91	89
	成果指標	入込客数前年比(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅なもり清見入込客数)	%	目標値	102	92	112
				実績値	92	100	-
				算出根拠等	達成率(%)	90	109
	成果指標	荘川町観光客入込客数(1月~12月)	人	目標値	460,000	460,000	460,000
実績値				413,299	393,835	-	
算出根拠等				達成率(%)	90	86	-
			目標値				
			実績値				
			算出根拠等				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	3,473	1,000	1,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,473	1,000	1,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	891	257	264	
	受益者		(B)	3,896	3,894	3,781	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・春の桜・秋の紅葉等の誘客により、地域の活性化につながり、市民のニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・荘川・清見は高山市の西の玄関口となっており、荘川・清見地域連携の誘客事業により、高山市全体への誘客につながるから市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・平成23年の震災以降、当地域への入込み客は一時的に減少したものの、ここ数年は徐々に戻りつつあり、今後も引き続き観光キャンペーンなどにより、地域の魅力をPRしていく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・荘川地域、清見地域の関係機関と連携して協議会を設立し、事業を行うことで、市長の公約に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・平成21年度より実施した交通量調査などを今後の事業に活かす必要がある。
--	--------------------------------------

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・特別期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与及び負担金を段階的に縮小していく必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・今年度実施する誘客キャンペーン事業内容に、交通量調査分析結果を有効活用する取り組みを実施する。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・実施した交通量調査や分析結果を有効に活用し、北陸地域からの誘客に向けた具体的な取り組みを実施する。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・特別期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の支援を縮小していく必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	73199	河川整備対応事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	河川費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	河川維持費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	牧ヶ洞地区住民	対象者数	700 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・豪雨時に頻繁に被害が発生する落差工等を整備し、市民が安全・安心・快適に暮らせる地域づくりに繋げる。		
概要	事業の実施手法(手段)	普通河川(岩野川)の落差工等の修繕工事		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	25年度新規事業のため実績なし							
		指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25		
	活動指標	整備箇所	件	目標値			1		
				実績値			-		
	成果指標	事業実施受益者数	人	目標値			700		
				実績値			-		
	コスト面	財務内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
			歳出(千円)		(A)	0	0	4,000	
			受益者負担(使用料・負担金等)						
			その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
			一般財源					4,000	
			コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B)			5,714
			受益者		牧ヶ洞地区住民	(B)			700
			補足事項						

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H25新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	H25新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H25新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考)
H24事業評価結果(二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・河川落差工等の修繕				
-----------------	------------	--	--	--	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・改修箇所の現地を確認し、緊急性を要する箇所から順次実施する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	74799	せせらぎ街道スポット整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
概要	どういった状態にしたいのか(意図)	・高山市の西の玄関口として、観光客の増加を図るとともに、道路利用者が安全・安心に利用できるよう沿道の景観保全を行う。		
	事業の実施手法(手段)	・高木の枝処理 ・スポット施設の樹木の整備		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・高木枝処理 ・立ち枯れ木の処理					
		指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	高木枝処理本数	本	目標値	30	50	30
				実績値	22	53	-
				算出根拠等	達成率(%)	73	106
	成果指標	せせらぎ街道利用者数	人	目標値	180,000	180,000	180,000
				実績値	168,680	170,902	-
				算出根拠等	達成率(%)	94	95
	成果指標	利用者数前年比	%	目標値	111	94	105
				実績値	94	101	-
				算出根拠等	達成率(%)	85	107
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値						-	
算出根拠等				達成率(%)			-
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	3,659	774	500	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,659	774	500	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,402	298	195	
	受益者		清見地域住民(4月1日現在)	(B)	2,609	2,597	2,558

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・平成23年の震災以降、せせらぎ街道の利用者は一時的に減少したものの、ここ数年は徐々に増えてきており、観光道路としてのニーズは非常に高い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・せせらぎ街道は生活道路であるとともに、当市の西の玄関口でもある観光道路として重要であるため、ボランティアによる作業や県と連携し景観を維持する必要がある。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・せせらぎ街道の利用者は徐々に増えており、同街道の魅力である景観の維持・保全是地域の観光PRや活性化に繋がっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・業務委託は各業者の見積りにより選定し、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。	
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・自然豊かなせせらぎ街道の景観保全に努め、観光資源として積極的に活用していることから市長の公約に結びついている。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題 (FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・せせらぎ街道は生活道路であるとともに観光道路として重要であるため、ボランティアによる作業や県と連携し景観を維持する必要がある。

(参考)
H24事業評価結果 (二次評価)

・県が管理する道路施設の除間伐等については、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・沿道スポットの立ち枯れ木及び高木枝処理
・県が所管する施設等について県と調整を行い実施する。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/>	維持・改善	<input type="checkbox"/>	拡大	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="checkbox"/>	廃止の検討	<input type="checkbox"/>	H25完了予定
	・せせらぎ街道のスポット施設の現況を把握するとともに、足を止めていただく施設・安全な施設となるよう整備する。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)

・県が管理する道路施設の除間伐等については、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94799	清見民俗資料館修繕整備事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画							
市長公約	10	伝統を守り、次代へ継承します。 市民の単の行政改革を断行します。 将来を見据えて必要な行政改革をすくりに断行します。 市の施設や支所の改修を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	修繕が必要な清見民俗資料館の施設修繕を行い、清見地域の貴重な民俗資料を適正に保存する。		
概要	事業の実施手法(手段)	外壁塗装修繕面積 542㎡(板壁239㎡、トタン壁303㎡)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H24の実績	資料館屋根塗装修繕 523㎡ 資料館倉庫屋根塗装修繕 168㎡					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動 指標	屋根塗装修繕工事	㎡	目標値		523	
				実績値		691	-
				算出根拠等	達成率(%)	132	-
	活動 指標	外壁塗装修繕面積	㎡	目標値			542
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		-
	成果 指標	民俗資料の適正保管数	点	目標値	5,444	5,444	5,444
				実績値	5,444	5,444	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果 指標			目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		-
	成果 指標			目標値			
実績値						-	
算出根拠等				達成率(%)		-	
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	1,544	2,700	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				1,544	2,700	
	一般財源						
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)		595	1,056		
コスト 指標	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)		2,597	2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・昭和56年に旧清見村役場の仮庁舎として、廃校を移築したものであり、その後30年経過し、屋根や外壁のトタンは色があせ錆が発生し、板壁の塗装がはげ、雨漏り等による民俗資料の腐食等が懸念されていた。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・この施設は市有施設である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	A	新たに塗装をすることにより、雨風の侵入を防ぎ、歴史的希少価値のある財産を守ることができる。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	見積書の比較設計により、設計費を最小限に抑えている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	新たに塗装をすることにより、雨風の侵入を防ぎ、歴史的希少価値のある財産を守ることができる。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題 (FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・希少価値の高い民俗資料を、今後長期間にわたって保存していくためには、通気性の確保や虫干しなどを行わなければならないと思われる。

(参考)
H24事業評価結果 (二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	ボランティアによる清掃、害虫駆除は毎年行っているが、今後も継続して行う。
-----------------	--------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95299	清見地域体育施設維持管理事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 体育施設費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます ・地域住民が自ら地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域以上を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	快適に使用できる体育施設とし、利用者の増加を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	小鳥グラウンド屋外便所の衛生改善を目的として、水洗トイレに改修する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	平成25年度の新規事業のため実績なし					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	水洗トイレの便器設置数	基	目標値			6
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標	小鳥グラウンド利用者数	人	目標値	2,000	2,000	2,000
				実績値	2,315	2,321	-
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標	小鳥グラウンド利用件数	件	目標値	40	40	40
				実績値	51	43	-
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
実績値						-	
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	6,500	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					6,500	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)			2,541	
指標	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)			2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	「平成25年度新規事業」
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	51399	新規就農研修施設管理事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	3	産業の柱として農業・林業・畜産業を確立します。 ◎次代のつなげる農業を実現します ・農業を、豊かで広大な自然環境の恵みを活かして、技術と経営の一体的な確立を図り、次世代につながる産業に育てるため人材育成(後継者育成・新規就農者獲得・就業体験・研修制度)、農商工連携による第6次産業化などの施策を、農業従事者の声を聞きながら積極的、かつ合理的に実施する。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	4 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・新規就農希望者に研修施設を提供することで、就農者の増加を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・新規就農研修施設の維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・新規就農研修施設の維持管理					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	研修施設入居者数	人	目標値	4	4	4
		算出根拠等		実績値	3	2	-
	成果指標	入居者の遊休農地耕作面積	a	目標値	100	100	100
		算出根拠等		実績値	55	55	-
				達成率(%)	55	55	-
		算出根拠等					
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等					
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
算出根拠等							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	511	122	200	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			511	122	200	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	170,333	61,000	50,000		
	受益者	(B)	3	2	4		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の耕作放棄地を減らす手段の一つとして、新規就農者による就農の取り組みについて市民ニーズが高まっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市は耕作放棄地の解消を推進しており、耕作放棄地解消につながる新規就農者の受け入れについて、市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・施設利用者は前年度を下回っているが、施設利用者が退去後、地域内で定住し就農した実績もあり、成果はある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・新規就農者が、施設を退去後地域内に定住し就農した実績もあり、市長の公約である農業の人材育成に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・施設利用者が、退去後地域内で定住し就農するケースもあるが、施設利用人数は減っているため、施設利用者を増やす取り組みが必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・効果(施設利用者数に対する就農者数など)について分析し、施設利用者確保や定住促進を進める必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・市外からの新規就農希望者に対して、施設利用のPRを行う。 ・施設退去後の定住について、土地の斡旋など地元関係者と調整する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・施設利用者の人・農地プランの位置づけなどにより、就農者の確保や拡大につとめる。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・効果(施設利用者数に対する就農者数など)について分析し、施設利用者確保や定住促進を進める必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62399	大原地域活性化事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	観光施設費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	10	市民のための行政改革を断行します。 ◎将来を見据えて今後必要な行政改革をすくりに断行します。 ・市の施設や支所の改修を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	大原地区住民	対象者数	89 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・ホテルバスカル清見関連施設の試験的活用と周辺広場の修景。		
概要	事業の実施手法(手段)	・大原自然体験センターとの連携により、地域全体でグリーンツーリズムを推進する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H24の実績	ホテル関連施設の維持管理 体験館(ホテル隣接)周辺の体験事業					
	指標名						
		単位	目標・実績	H23	H24	H25	
	活動 指標	①体験館の利用人数(ホテルバスカル清見隣接施設) 算出根拠等	人	目標値	90	150	150
			実績値	105	188	-	
			達成率(%)	117	125	-	
	活動 指標	②大原自然体験センターの利用者数 算出根拠等	人	目標値	2,000	2,000	3,000
			実績値	2,585	3,708	-	
			達成率(%)	129	185	-	
	成果 指標	①大原自然体験センターの利用前年比 算出根拠等	%	目標値	237	127	81
			実績値	127	143	-	
			達成率(%)	54	113	-	
	成果 指標	算出根拠等		目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
成果 指標	算出根拠等		目標値				
		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A) 2,104	1,099	1,200		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,104	1,099	1,200		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 24,465	12,779	13,483		
	受益者	大原地区住民	(B) 86	86	89		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域活性化を推進するうえで、ホテル関連施設は道の駅バスカル清見を取り囲む周辺景観と一体となった施設でニーズも高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設は市の所有であり、グリーンツーリズム事業についても市が積極的に推進していることから市の参画は妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・体験館や大原自然体験センターの利用者も増えてきていることから活動は概ね達成した。 ・ホテル施設の将来的な活用について地元関係者と調整が必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・施設を利用できる最小限のコストで概ね適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・遊休施設の有効活用のために市長の公約に結びつき、周辺の整備も行い自然体験事業の拡大に繋がった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・ホテル施設の活用について、地元関係者との検討・調整が必要である。
---------------------------------------	-----------------------------------

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・ホテルバスカルの将来的な活用方針を定める必要がある。
----------------------	-----------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・ホテル施設の活用について、地元関係者との検討・調整を行う。
-----------------	--------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・道の駅やオートキャンプ場と連携し体験プログラムの拡大とグリーンツーリズムの推進を図る。周辺景観保全については今後も継続する。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H25完了予定
	・ホテルバスカルの将来的な活用方針を定める必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	74799	幹線道路沿線環境整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費		O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・清見地内幹線道路の沿道修景事業を実施し、来高者に高山市の玄関口として整備された景観を提供し、気持ちよくドライブを満喫してもらう。		
概要	事業の実施手法(手段)	・清見地内幹線道路の草刈り		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・街道沿線の草刈 L=31.4km					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	草刈延長	km	目標値	30	31	31
		実績値		32	31	-	
		算出根拠等		達成率(%)	107	100	-
	成果指標	清見町入込客数	人	目標値	470,000	480,000	480,000
		実績値		446,016	447,134	-	
		算出根拠等		達成率(%)	95	93	-
	成果指標	入込客数前年比	%	目標値	102	96	107
		実績値		96	100	-	
		算出根拠等		達成率(%)	94	104	-
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,869	1,589	1,900	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,869	1,589	1,900	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	716	612	743	
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)	2,609	2,597	2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・平成23年の震災以降、せせらぎ街道の利用者は一時的に減少したものの、ここ数年は徐々に増えてきており、観光道路としてのニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・せせらぎ街道、やまびこ街道、卯の花街道は生活道路であるとともに、当市の西の玄関口でもある観光道路として重要であるため、ボランティアによる作業や県と連携し景観を維持する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・景観の維持・保全は、人を呼び込むために有効である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターへ委託し、効率化がなされている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・高山市の玄関口である幹線道路沿線の景観の維持・保全は、入込客の増加にもつながり、観光道路としての効果を高めた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		9 / 10	→	100点換算 90 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・せせらぎ街道、やまびこ街道、卯の花街道は生活道路であるとともに観光道路として重要であるため、ボランティアによる作業や県と連携し景観を維持する必要がある。

(参考) H24事業評価結果(二次評価)

・県が管理する道路の草刈りは、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・県のロードプレーヤー事業、地域のボランティアと連携し草刈りを実施する。

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・高山市の西の玄関口として、道路周辺景観を保全するためにも継続する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H25完了予定
	・県が管理する道路の草刈りは、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3211
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	D その他事業	
根拠計画							
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するため地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援する		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業への補助を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	補助金交付件数	件	目標値	13	13	13
				実績値	12	8	-
		算出根拠等		達成率(%)	92	62	-
	成果指標	補助金受益者対象者	人	目標値	2,609	2,597	2,558
				実績値	4,781	3,981	-
		算出根拠等		達成率(%)	183	153	-
				目標値			
				実績値			-
				達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
				達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A)	2,718	2,495	3,600	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			2,718	2,495	3,600	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,042	961	1,407		
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B)	2,609	2,597	2,558	

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・人口の減少や高齢化等により地域活動が縮小している現状があり、地域からの財政的支援のニーズは高いが、高齢者の多いところでは簡易な基盤整備しかできない。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業なので、市が実施する必要はないが、助成が必要である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域住民が自らの地域改善に取り組む活動は地域により差は見られるが、全体的に要望があり概ね地域住民に成果が及ぶ
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・原材料費等の原価部分について助成するが、人的労力は地域住民が行うことが条件のためコスト縮減の工夫がされ、地元業者への経済効果もある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の個性あるまちづくりと、市域との一体感を創るため、地域が取り組む活動に効果があった。 ・市長の公約の中にある地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算そのものである
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		9 / 10	→	100点換算 90 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・人口減少や高齢化等により地域活動が縮小している現状にあって財政支援のニーズは高く、計画的な地域づくりは必要であるが、高齢化になって住民自らが行うことについて出来る事業が限られてきている。特に基盤整備関係については、重機を取り扱う住民がいれば積極的にいえるが、そうでない地域の住民は人力で行うことが多くなり、人足に出る期間も長くなっていくのが難しい。

(参考) H24事業評価結果(二次評価)

・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・地域住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業を町内会からの要望書及び情報連絡並びに各種団体からの要望を精査して実施箇所の現状確認をして選定を行う。
・町内会等の事情により地域住民の参加が困難な場合(地域の若い高齢化など)あるかどうか申請時に聞き取りを行い作業等に掛かる経費について補助対象になるか協議する。

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/>	維持・改善	<input type="radio"/>	拡大	<input type="radio"/>	縮小	<input type="radio"/>	廃止の検討	<input type="radio"/>	H25完了予定
	・市民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため町内会等が主体となって取り組む振興事業に対して継続的に実施する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)

・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
根拠計画	七次総合計画						
市長公約	4	合併後のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域住民から信頼される支所運営を目指し、支所機能の強化をはかるために、権限と予算の再構築を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見地域住民	対象者数	2,558 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・市有施設の軽微な修繕など地域住民の要望に即応し、安全・安心・快適に暮らせる地域づくりに繋げる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、農道、水路等の市有施設の軽微な修繕を支所長権限で実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・要望箇所の現地確認(5月～11月) ・市道、排水路、市有施設等の修繕(7箇所)																																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td rowspan="2">実施事業</td> <td>目標値</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>130</td> <td>50</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>2,609</td> <td>2,597</td> <td>2,558</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td rowspan="2">実施受益者(延べ人数)</td> <td>実績値</td> <td>3,702</td> <td>2,240</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td>142</td> <td>86</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25	活動指標	実施事業	目標値	10	14	20	実績値	13	7	-	算出根拠等		達成率(%)	130	50	-	目標値	2,609	2,597	2,558	成果指標	実施受益者(延べ人数)	実績値	3,702	2,240	-	達成率(%)	142	86	-	算出根拠等		目標値			-	実績値			-	算出根拠等		達成率(%)			-	目標値			-	算出根拠等		実績値			-	達成率(%)			-	算出根拠等		目標値			-	実績値			-	算出根拠等		達成率(%)			-
	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25																																																																																	
	活動指標	実施事業	目標値	10	14	20																																																																																	
			実績値	13	7	-																																																																																	
	算出根拠等		達成率(%)	130	50	-																																																																																	
			目標値	2,609	2,597	2,558																																																																																	
	成果指標	実施受益者(延べ人数)	実績値	3,702	2,240	-																																																																																	
			達成率(%)	142	86	-																																																																																	
	算出根拠等		目標値			-																																																																																	
実績値					-																																																																																		
算出根拠等		達成率(%)			-																																																																																		
		目標値			-																																																																																		
算出根拠等		実績値			-																																																																																		
		達成率(%)			-																																																																																		
算出根拠等		目標値			-																																																																																		
		実績値			-																																																																																		
算出根拠等		達成率(%)			-																																																																																		
		補足事項																																																																																					
・地域住民の要望に対し即対応できる。 ・市有施設の適正な管理に繋がっている。																																																																																							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額																																																																																		
	歳出(千円)		(A) 4,731	4,088	8,500																																																																																		
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																						
	一般財源		4,731	4,088	8,500																																																																																		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,813	1,574	3,323																																																																																		
	受益者	清見地域住民(4月1日現在)	(B) 2,609	2,597	2,558																																																																																		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域要望に迅速に対応できることから、住民ニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の適正な管理に繋がることから、市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域住民の要望に対して、一定の地域に偏らないよう精査し、迅速に対応できていることから、十分に達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・市の設計基準に基づいて設計を行っている。 ・年々要望件数が多くなってきていることから、地域自らが国・県補助(農地・水)を活用して行う事業と市で実施する事業を地域内で精査することが必要。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	当該事業の実施は、第七次総合計画等で示されている市道、農道、水路等市有施設の適正な管理及び整備の推進に繋がることから効果が大きい。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・予算内での執行の効率性を高めるためにも、国・県の補助金(農地・水等)を活用し、地域自らが行う事業と市が実施する事業を精査する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・各要望箇所の現地を確認し、実施箇所の選定を行う。(6月) ・緊急性を要するものから順次実施。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・地域住民の要望に即応し、安全・安心に暮らせる地域を構築するためにも事業を継続する。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> H25完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	土地借上料		担当課	清見支所 地域振興課	内線
	番			清見支所 基盤産業課	
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A 合併前から実施されているイベント・行事	
	款	総務費、農林水産、商工費		○ B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	総務管理費、林業費、商工費、観光費		C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	財産管理費、林業振興費、観光施設費、商工振興費、財産管理費		D その他事業	
根拠計画					
市長公約	10	市民のための行政改革を断行します ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすくりに断行します			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	土地所有者	対象者数	31 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市施設用地の借地について、市基準値で契約を締結する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市の基準単価を上回る土地賃貸借。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・市の基準単価に基づく設定への移行を目指し、所有者との交渉を行った。 ・公共施設用地の土地賃貸借契約 31件					
	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
	活動指標	借上件数	件	目標値	31	31	31
				実績値	31	31	-
	成果指標	算出根拠等	土地賃貸借契約書	達成率(%)	100	100	-
				借上面積	目標値	993,853	993,853
		算出根拠等		実績値	993,853	993,853	-
				達成率(%)	100	100	-
		算出根拠等		目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
		算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
		算出根拠等		目標値			
実績値						-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			補足事項				
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額		
	歳出(千円)		(A) 5,885	5,885	5,075		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		5,885	5,885	5,075		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 189,839	189,839	163,710		
	受益者	土地所有者	(B) 31	31	31		

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・公共施設として市民や観光客などに利用されており、市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の施設用地であることから、市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・借入れている施設用地は、観光・商工事業などの誘客増加と地域活性化に繋がる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・市の基準単価に近くよう地権者と交渉した。 ・一部契約案件を除いて、25年度より3年間で段階的に調整し、平成27年度に市の基準となる契約更新を行う。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・借上げしている土地は生活環境保全林や公園施設であり住民の憩いの場や観光資源として活用しているもので市長の公約に結びつく。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・一部の契約案件について、市の基準単価に近づけるよう交渉が必要。
---------------------------------------	----------------------------------

(参考) H24事業評価結果(二次評価)	・市の基準単価に近くよう交渉をし理解を求める。
----------------------	-------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・一部の契約案件について、市の基準単価に近づけるよう交渉する。
-----------------	---------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・一部の契約案件について、市の基準単価に近づけるよう交渉する。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)					